

永遠と瞬間

ヴォロビヨフ・マリア

この世の中に住んでいる人々はそれぞれ全然違うということは誰でも知っているはずで、地位、お金、家族、目的、夢など違います。残念ですが、お金や地位などのせいで人の中で争いが起こることも多いです。でも不平等を悪化させない限りといえれば時間感覚があります。ある人にとって時間の流れは長く感じる一方で、他の人にとては24時間でも足りないくらい一日は早いです。まるで自分の人生は永遠に続くかのように全く価値がないことに集中している人もいれば、一杪でも大事にしきて、生活を味わうのも忘れるほど時間の流れを心配する人もいます。でもどうしてこんなに違うのでしょうか？

このテーマについて考えると、頭にロシアの文芸からのいい言葉が浮かびます。「幸せな人は時間がたつことに気がつかない。」

本当はだいたい幸せな人は将来の計画も立てて、全然こわがらずに未来を待っています。この人生の終わりが一生来ないかのようです。それでもいいと思います。私も子供の頃同じような時間感覚を持っていました。でも全部が変わったのは体が弱くなった時からです。色々な診察もして、たくさんの薬やビタミン剤を飲んだら、ちょっとだけ明日が来ないでほしいというような気分にもなってしました。病気がひどくなり、ある日私は入院しました。

いつも母や姉と一緒にいた私は一人になるのにまだ慣れていたくて、とても悲しんでいました。しかし、一人の女の子と友達になることができ、そこで言葉で表せないほど嬉しくなりました。けれどもその女の子はとてもひどい病気で痛みのせいでほとんど立てませんでした。小さい病室でベッドのとなりにあるいすに座っていて、私は苦しんでいる彼女を慰めようと思いました。でも、彼女を喜ば

せろために将来について考えましょうと言つた時、病気で青白い顔の表情がちょっと硬くなつて、彼女は頭を左右にふつて、小さい声でささやきました。「将来は今どうでもいいでしよう。もしかすると私は明日がないかもしけない。だから、今の瞬間だけあつて、この瞬間を一生大事にして、心から楽しみます。」

小さい子供であった私はその言葉が私と同じ年くらいの子供が言う言葉じやないことをさえわがりませんでした。三日後その女の子はこの世から去つていきました。私はもう彼女の目の色も、名前も覚えていませんが、この最後に言った言葉を今までしつかり覚えていります。小さい子供だったのに、初めて明日が来ないということがあるのだとかわかりました。

その時から私は生きていけるのはたただ今の瞬間だけです。昨日の悩みも明日の心配もどうでもいいです。というのは昨日はもう二度と来ることがなく、明日があれば、この明日は今

日になるのですから。このように考え始めたら、周りの世界は全然違って見えるようになつた気がします。人生は永遠に続かないのでも、今生きている限り周りの瞬間の美しさを見つけられたらいいと思ひます。鳥の歌声、春の風、友達や家族の微笑み、太陽の眩しさなど全部は何とも言えないほど美しいことです。でも人はいつもどこかに向かって急いでいて、こういうあまり目立たないことに気がつきません。ある友達に星なういっても見られると言われましたが、本当にそうなのでしょうか。

時間感覚は人によって異なります。どんな時間感覚をもとにしてどうやって生活をおくるのかは自分自身しか選べません。未来を見て、ひたすら遠い夢を目指すことも、遠い将来など考えず瞬間だけ味わうこともいいです。終わりがやがて来た時に「本当にいい人生だったなあ。」と言えるくらい人々に幸せに生きてほしいです。